

姜相鎬(カンサンホ)の墓

バスに乗って10分ほど行くと「衡平運動家 姜相鎬 墓所」とハングルと漢字と英語で書かれた看板が掲げられていた。バスを降りて参拝した。

申振均理事長は「長い間、姜相鎬先生の墓は墓標もなくさびれていたところ 1999 年に金章河衡平運動記念事業会初代会長が、寂しく思い『栢村 姜相鎬之墓』という墓石を設置した」と説明された。



裏面には「世知辛く煩わしい世界が続くほど懐かしい先生です。-小さな市民」と刻まれている。

丁度、墓の前には花束が供えられていた。

私たちは、姜相鎬先生を追悼する黙とうをした。



2005 年には三一運動の功績を認定されて「愛国志士」に推挙された。2006 年に姜相鎬の子孫は、国立大田



顕忠院 独立有功者墓域に墓を移そうとしたが、地域の人々が「墓が晋州にあることで衡平運動を記憶できる」と子孫を説得して晋州に残した。

2007 年看板が建ち 2012 年に案内板(韓・日・英)が設置された。

衡平運動記念事業会は、墓域の整備事業を段階的に推進している。長期的には「衡平歴史公園」を造成するために、申振均理事長は2年先輩の保守系の晋州市長に墓所の隣地を晋州市が買い上げるように申し入れてきた。価格を引き上げるために応じてこなかった地主が最近、亡くなり、その息子が売ってくれたようで進展が期待されるとのことです。

「案内板」日本語版 衡平運動家 姜相鎬

栢村(ペクチョン)という号を持つ姜相鎬(1887.6.3-1957.11.12)先生は1887年晋州郡井村面加佐里で晋州郡大安面長を務めていた姜在淳の長男として生まれる。幼い時から漢学を学び、その後晋州公立普通学校及び晋州農林学校を卒業。人を助けるのを好む両親の志を受け継ぎ1917年から約9年間貧しい村民のため戸税を代納するなどした。



先生は旧韓国末期及び日帝強占時代を経ながら国債報償運動慶南会結成(1907年)や晋州私立鳳陽普通学校運営(1915年)、晋州地域の三一運動主導(1919年)、一新高普設立の際の発起人(1920年)、晋州労働共済会会計(1923年)、日本人木綿不正事件解決実行委員(1924年)、新幹会晋州支会(1927年)等を務めた。このような様々な社会活動の中で先生が最も心血を注いだのは衡平社を創立し衡平運動を導くことであった。先生は朝鮮時代に最も卑賤な身分であった白丁(賤民の一種)の身分解放と教育のために尽力した(1923-1935)。両班家の子孫であるにも関わらずこのような活動をしていることを当てつけ、当時の人は先生を「新白丁」とであると揶揄することもあった。1957年に先生が世を去ると晋州の市民は葬儀を韓国畜産企業組合連合会葬として盛大に取り(マ)行ない、祖先の墓の土地があるこのセベリに墓所を安置した。2005年には韓国政府から愛国志士として叙勲されている。

2012年4月25日 衡平運動記念事業会

衡平運動の先導者姜相鎬が衡平運動に飛び込んだ理由としては、白丁李学賛(イハクチャン)が息子の公立学校入学拒否事件を姜相鎬、申鉉壽(シンヒョンス)・千錫九(チョンソック)等に訴えて、彼らが賛同して衡平社が創立されたというのが通説である。

申振均理事長は以下の新説を披露してくれました。姜相鎬は3・1運動により大邱刑務所で服役したが早く仮釈放できた。彼は獄死した権采根(クオンチェグン・1889.2.5-1920.1.23)同志の遺体を牛車に乗せて大邱から晋州まで棺を運んできた。

晋州に到着するやいなや、白丁の青年が補身湯の食材の犬を捕まえて来なかった、という理由で両班の青年たちに殺害された事件を伝え聞いて、大きな衝撃を受けて、姜相鎬が衡平運動を起こした。

*チョギョテ(조기태)著『衡平運動の先導者栢村姜相鎬』(ポルブックス 2020年)で初紹介された新説。

南星堂韓藥房

最後の訪問先は、衡平運動記念事業会 金章河初代会長が経営していた南星堂韓藥房です。

泊まったホテルから近かった。2022年5月31日に閉店したが、晋州市が買い上げて「南星堂教育館」開館のための工事（2024.12.26-2025.7.23）を



していました。1階店舗は保存して2・3階を教育空間として利用する予定。申振均理事長は、2階に衡平運動教室を作りたいが、反対もあるらしい。

泗川の貧しい家庭出身の金章河（1944.1.16生）さんは中学校卒業後、漢方薬局の店員として働きながら19歳（最少年記録）で漢方薬剤師試験に合格。1963年に泗川で漢方薬局を開業した。1973年に晋州に移って来て、すぐに東城洞の現在地に南星堂韓藥房を開き成功を収めた。

ご自身が貧しくて学べなかったため明新高等学校の設立や南星文化財団から奨学金を支給して教育支援事業で社会に貢献した。衡平運動記念事業会会長1992-2004年。旧晋州新聞の理事長。晋州文化研究所を通じて晋州の歴史研究と文化の発展に努力した。2021年12月に解散した南星文化財団の基金34億5千万ウォンを国立慶尚大学校に寄託した。

文炯培 憲法裁判官

去る4月4日憲法裁判所は文炯培（ムンヒョンベ）所長権限代行の主導のもと憲法裁判官8人全員一致で尹錫悦（ユンソンニョル）前大統領を罷免するという歴史的な決定を下した。

文炯培代行は「主文。被請求人・大統領尹錫悦を罷免する」と罷免決定を朗読した。世界的に注目を集めた審判をとりまとめた文炯培代行は4月18日に任期を終えて憲法裁判所を退官した。

その時のインタビューで「質素に生活してきた。高校2年生から大学4年生まで金章河さんから奨学金を貰ったお陰で勉強ができた」と感謝の言葉を述べた。

そのニュースの影響で4月18日に通訳の朴修鏡さんから「映画『長老（오른·어른）キムチャン

ハ』（2023年11月15日公開・MBC慶南TV制作



のドキュメンタリー番組の映画化)がNetflixで大人気です」とメールがありました。

←5月2日晋州を訪れた文炯培（左）と迎えた金章河（右）

YOUTUBEで金章河さんは「今回は、みなさん大変ご苦労様でした。このようにして民主主義が発展していくようです」と挨拶していました。

衡平運動記念事業会の活動

1992年4月24日「衡平運動70周年記念事業会推進委員会」が金章河の南星堂韓藥房で発足した。

私は、1990年ハンギョレ新聞の特集記事『発掘 韓国現代史人物』で高宗錫記者の「姜相鎬」（1990.2.16）「張志弼」（1990.2.9）が契機になったと考えている。

その日本語版の『山河ヨ我ヲ抱ケ、発掘 韓国現代史の群像（上・下）』（ハンギョレ新聞社編 解放出版社1993年・1994年）を翻訳した高賛侑（コチャンユ）さんが、今回の旅行に参加されたのでお聞きすると「（翻訳を）覚えていない」とのことで、残念だった。

2007年から毎年4月に衡平社創立記念招請講演会を開催している。洪世和、張香淑、朴元淳、韓勝憲、姜萬吉、任軒永、咸世雄、陳重権などが講師。

衡平運動記念事業会は2023年4月25日に「衡平運動100周年記念式」を盛大に開催した。（HPで見られる）丁度、私は晋州を訪れていて晋州博物館で衡平運動特別展示（2023.5.13-7.16）を見て、もっと知りたいと思い今回の旅行を計画しました。

申振均さんは、2023年のインタビューで衡平運動記念事業会の課題として①衡平運動記念事業会の法人化。②衡平歴史公園の造成。③「衡平の日」4月25日国家記念日の指定推進。を掲げている。

また、衡平運動記念館建設の構想もあるようです。

申振均理事長は大学修学能力試験の問題に衡平運動を出題して、広くアピールできたと自負する。

2024年申振均さんが理事長になり4月25日創立101周年記念式や8月には日本の部落解放同盟大阪府連合会・水平社博物館を訪問して交流している。

今年4月25日衡平運動記念塔で創立102周年記念式と機関紙「衡平」創刊出版記念会を開催した。衡平運動記念事業会の大発展をお祈りします。（終）